



備中国分寺や作山古墳一帯を「南の吉備路」と位置付け、鬼城山とその周辺一帯は「北の吉備路」と呼ばれ、吉備史跡県立自然公園に指定されている。この一帯は、吉備高原の南縁に位置し、気候や地理的条件が県中部に類似。このため、多種多様な植生や動物相が見られる上に、絶滅が危惧されている貴重な種が存在する。先月6日、ここに総社北小学校区の児童と保護者約50人が訪れ、自然観察を行った。

「北の吉備路環境調査報告書」（平成15年）によると、シダ類以上の高等植物992種、昆虫類1475種がここで確認されている。その中には、少なからぬ絶滅危惧種も含まれ、改めてこの地域の生態系が良好な状態であることが明らかになった。例えば、これまでに総社市内で採集された高等植物が1281種（岡山大学資源生物科学研究所などに収蔵されている標本数）であることを考え合わせると、この域内だけで約77%も占めることになる。また、この地域から64種のトンボ類も確認されており、この数は県全体の約7割に当たる。これらの事実はこの地域が豊かな自然環境に恵まれている証と言えるだろう。

自然は、生命生存の基盤で地球上の全ての生命が共有する貴重な財産。人間は、自然に働きかけ、高度な文明を築き上げてきた。しかし、自然から、空気や水、食料や燃料、衣類の原料、さらには潤いや安らぎなど、生きるために必要な恩恵を様々に受けている。自然なくしては、人間の生存はあり得ないこのような背景を考えれば、北の吉備路に見られるような豊かな自然環境を今後もしっかりと守っていく必要がある。

里地・里山の風景を残すこの一帯は、昔から薪拾い、茸狩り、炭焼き、あるいは、水田耕作や畑作など、人が自然に溶け込み、維持管理を行ってきた。つまり、生活と調和した豊かな自然環境が守られてきた場所だ。しかし、この地域にも過疎・高齢化の波が押し寄せるのと同じ時に生活様式の変化など、山と人の結びつきが弱くなっている。山が荒廃することによって生態系のバランスが崩れると、多様な動植物に影響を与えかねない。また、マニアなどによる希少な動植物の採取も自然保護に逆行する行為として見逃すことができない。

北の吉備路自然環境調査員を務め



ゲンカイツツジ

た脇本浩さんに自然保護について伺った。「この前の親子自然観察会で、実物のヤモリを前にお子さんよりも若い親御さんの方が興味津々でした。今の時代、大人も子供も忙し過ぎると思います。昔と比べれば自然と触れ合う余裕も減り、植物や昆虫に興味があっても、素早くインターネットなどで調べられるようになりましてからね。知識だけで、少ないんですかね実体験が。理屈抜きに自然へ飛び込んで欲しいですね。花を見て、嗅ぎ、虫に触る。五感をいっぱい使ってね。それらの体験によって、やがて、自然の美しさや不思議さに気付くようになるでしょう。自然ってなんてすばらしいだろうって。こころ感じられれば、自然に無頓着ではいられなくなるでしょうから」。

自然豊かな北の吉備路は、日本の里地・里山の縮図と言えるかもしれない。鬼城山ビジターセンター駐車場北側にある「北の吉備路学習見本園」というピオトープには、ハッチョウトンボが飛び交い、美しい草花が季節を彩っている。ここはいわば北の吉備路の縮図。どんな生き物が迎えてくれるのか、一度訪ねてみてはいかがだろうか。

鬼のすみかは美しい里山

温羅が残したもの それは城だけではない
清らかな水と豊かな緑に育まれた良質の自然
守らなければならない